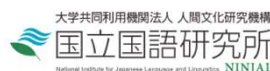


## 琉球諸方言における係り結びに関連する 述語動詞形式の交替現象

日本学術振興会／国立国語研究所  
林由華



## 目的

- 琉球諸方言において、焦点助詞の有無と連動した述語動詞形式の交替（係り結びにおける終止形・連体形の交替に相当）が広く見られるが、それが起こる仕組み（機能的背景）には方言間で違いが見られること、また、そこで主として情報構造がどのように関わっているのかを示す。

2

## ここでの「係り結び」の（暫定的）定義

### ■ 係り結び（cf. 狭義係り結び）

係助詞【（**焦点**）助詞】+それと呼応する述語の非定動詞形【**結び形**】

※共通語になく、通言語的研究の中でも確立していないものをまとめているのであり、方言間・形式間に機能的な統一性があることは特に仮定しない

- これが何故起こるのかを究明すべく、焦点助詞や動詞の結び形が関係する現象を広く「**係り結び関連現象**」と呼び、観察対象とする

※「係り結び」が起こっているケースのみを扱うのではない

3

## 主張

琉球諸方言における**焦点助詞 du**の有無と連動した述語動詞形式の交替（係り結びにおける終止形・連体形の交替に相当）について

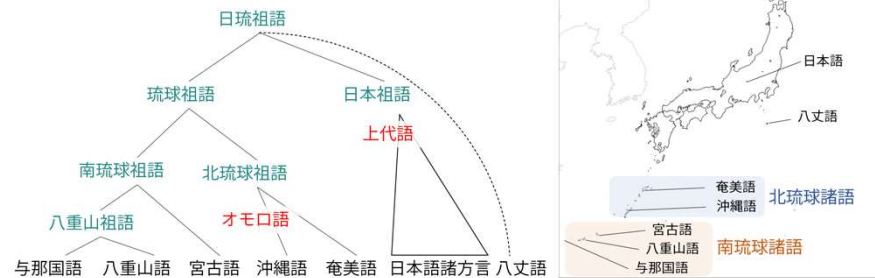
- この述語動詞形式の交替には、情報構造の観点からみて、**宮古八重山タイプ**と**北琉球タイプ**の異なる**2タイプ**がある
- そのうち、**宮古八重山タイプ**は情報構造の形態論的な標示が**義務的な言語**であり、それが述語動詞形式においても**明示される**ために、焦点助詞と連動した形式交替が起こる
- 一方で、北琉球タイプでは情報構造について形態論上の義務的な標示はなく、モード・モダリティが述語動詞形式選択上のより強いキューになっている

以上を、この現象を通言語的な類型の中に位置づけながら示す

4

## 琉球諸方言の地理的關係と系統關係

- ペラール (2013) などを基に作成



5

## (個人的) 背景と動機 (1)

- 大学院生時代に、宮古語池間方言の調査を開始。最初のミッション：1年で聞いて話せるようになること
- 自分で使用する言語として、動詞「終止形」、頻出する焦点助詞 *du* の用法が分からないことが問題に

- 例)

**kama=n=du**      **usi=nu**      **uri**      **ui**  
 むこう=DAT=FOC      牛=NOM      いる.CVB      PROG.NPST  
 (牛がいることに気づいて) 「向こうに牛がいる」

**biturii=du**      **ui**  
 おなかいっぱい=FOC      PROG.NPST  
 「おなかいっぱいだ」

6

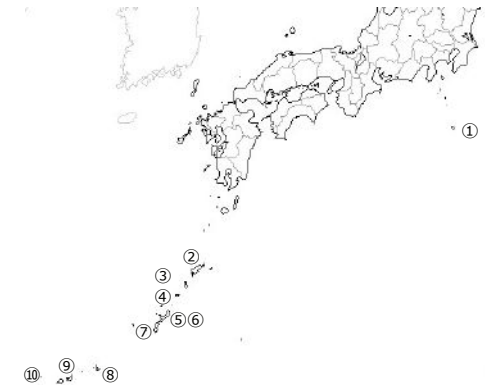
## (個人的) 背景と動機 (2)

- Hayashi and Takubo (2009), Takubo and Hayashi (2012) など
  - これまで「終止連体形」とされていたものは *du* やモーダルなしでは文末に立てない
  - 項側に焦点 (≠ *du*) を含まない文では、終止連体形とは別の動詞焦点専用の特殊終止形やモーダル付きの動詞が現れる
  - 上記の述語動詞形式の交替は、「係り結び」と呼べる
  - ※それまでは宮古では終止連体形が合流していて係り結びはないとされていた (内間 1985 など)
- 研究を続ける中で、琉球の中でも上記のような特徴をもつ方言は少数派であるらしいことが分かってくる => 調査地を広げて調査を行う

7

## 調査地点

- ① 八丈語 大賀郷
- ② 奄美語 平田
- ③ 奄美語 徳之島井之川
- ④ 奄美語 徳之島浅間
- ⑤ 沖繩語 津波
- ⑥ 沖繩語 名護
- ⑦ 沖繩語 首里
- ⑧ 宮古語 諸地域
- ⑨ 八重山語 宮良
- ⑩ 与那国語



8

## 話の流れ

- まずは宮古語池間方言のduが現れる構文の特徴について、林(2017)を基に説明し、どのように述語動詞形式の交替が起こるのか確認する
- その後、それをベンチマークに、諸方言、あるいは他言語との比較対象を行う

9

## 目次

1. 宮古語池間西原方言の記述
2. 通言語的な類型における位置づけ
3. 北琉球タイプの特徴
4. まとめ

10

## 1. 宮古語池間西原方言の記述

林(2017)を基に、ここで必要な概念を導入しながら、宮古語池間西原方言のdu焦点構文の特徴を見る。

※用語などは適宜置き換え

11

## 簡単な用語の整理

- 情報構造：文中の焦点と背景の区別
- 焦点：新情報、主張
- 焦点範囲：文中において意味的に焦点解釈を受ける要素の範囲
  
- 情報焦点：単なる新情報を表す
- 対比焦点：新情報+対比（とりたて）性

12

## 池間西原方言の焦点標示

- 直説法現在の文の場合は**形態論的な情報構造 (IS) 標示が必須**
- 形態論的なIS標示は、主として**話題標識 =a, =gyaa、焦点標識 =du、動詞焦点形**によってなされる
- つまり、duは基本的に新情報に付与され、情報焦点を表す。ただし対比焦点として解釈することもできる。
- **動詞焦点形**
  - 1) 語幹-dusi 例) ai-dusi(ある-FOC.NPST) ifu-dusi(行く-FOC.NPST)
  - 2) 特殊終止形 =>連用形と同形  
例) ari(ある.FOC) ※ある、いる、満ちる、知る のみ

13

## 池間西原方言のdu

- 主語や目的語などの項、補足語、動詞述語（本動詞と補助動詞の間）など様々な要素に付く
- ひとつの節につき1つ
- 情報焦点も対比焦点も表す
- 命令形、希求形などとは共起しない
- 否定形や意志形とは共起するが、対比焦点になる (cf. 占部 2019)

14

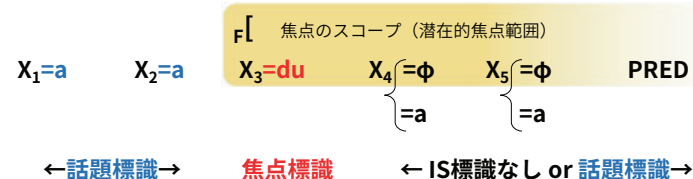
## 林 (2017)

- 目的：  
焦点標識 =du について、(i) この =duをもちいた焦点構造 (du 焦点構文) のもつ構文的特徴の記述、および (ii) 動詞活用形のうちに =du を付与された要素と同様に焦点形として機能するものがあることを示す。
- 主張：  
(i) については、du 焦点構文では焦点範囲の開始位置を表示する仕組みを持っており、それは①**焦点範囲開始位置より前の要素 (焦点より左の要素) に非焦点助詞 =aを付与する**②**焦点範囲の開始位置 (焦点の左端の要素) に焦点助詞 =du を付与する**という2重のマーキングによって行っている。(ii) については、述語動詞焦点を表すものとして (語源的に) =duを含む動詞活用形および =duを含む補助動詞構文があるほか、=duを含まないが述語のみが焦点であることが指定された活用形がある。それらは、上記の①②の特徴を満たすという点で =du が付与された要素と同じ特徴をもつ。

15

## 文中の要素におけるIS標識の出現順と焦点範囲 (1)

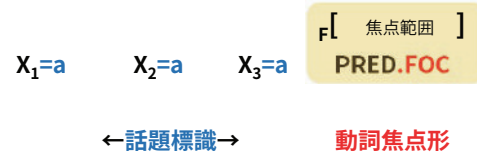
- 文中の要素におけるIS標識の出現順と焦点範囲 (p.93(8))



16

## 文中の要素におけるIS標識の出現順と焦点範囲（2）

### ■ 述語動詞焦点の場合



17

## duがnarrow focus を取る場合の例

### ■ 林 (2017)より

- (10)  $r[yunusi=ga=du]$      $obaa=ga\ yaa=n$      $kaas=su$      $fai\ ui$   
 ユヌス(人名)=NOM=FOC    おばあ=GEN 家=DAT 菓子=ACC    食べる.CVB ASPNPST  
 (誰がおばあの家でお菓子をたべているの?) 「ユヌスが**おばあ**の家でお菓子を食べている」
- (11)  $yunus\{=sa/*=ga\}$      $r[obaa=ga\ yaa=n=du]$      $kaas=su$      $fai\ ui$   
 ユヌス(人名)=NFOC/\*=NOM    おばあ=GEN 家=DAT=FOC 菓子=ACC    食べる.CVB ASPNPST  
 (ユヌスはどこでお菓子をたべているの?) 「ユヌスは**おばあ**の家でお菓子を食べている」
- (12)  $yunus\{=sa/*=ga\}$      $obaa=ga\ yaa=n\{=na/*=\phi\}$      $r[kaas=su=du]$      $fai\ ui$ <sup>19)</sup>  
 ユヌス(人名)=NFOC/\*=NOM    おばあ=GEN 家=DAT=NFOC/\*=\phi    菓子=ACC=FOC    食べる.CVB ASPNPST  
 (ユヌスは**おばあ**の家で何を食べているの?) 「ユヌスは**おばあ**の家でお菓子を食べている」
- (13)  $yunus\{=sa/*=ga\}$      $obaa=ga\ yaa=n\{=na/*=\phi\}$      $kaas=su\{=gyaa/*=\phi\}$      $r[fai=du\ ui]$   
 ユヌス(人名)=NFOC/\*=NOM    おばあ=GEN 家=DAT=NFOC/\*=\phi    菓子=ACC=NFOC2/\*=\phi    食べる.CVB=FOC ASPNPST  
 (ユヌスは**おばあ**の家でお菓子を作っているの?) 「ユヌスは**おばあ**の家でお菓子を(作ったのではなく) **食べている**」

18

## duが broad focus を取る場合の例

### ■ 林 (2017)より

- (14)  $r[yunusi=ga=du]$      $obaa=ga\ yaa=n$      $kaas=su$      $fai\ ui$   
 ユヌス(人名)=NOM=FOC    おばあ=GEN 家=DAT 菓子=ACC    食べる.CVB ASPNPST  
 (なにがあったの?) 「ユヌスが**おばあ**の家でお菓子を**食べている**」
- (15)  $r[yunusi=ga=du]$      $obaa=ga\ yaa=n$      $kaas=su$      $fai\ ui$   
 ユヌス(人名)=NOM=FOC    おばあ=GEN 家=DAT 菓子=ACC    食べる.CVB ASPNPST  
 (誰がどこで何を食べているの?) 「ユヌスが**おばあ**の家でお菓子を**食べている**」
- (16)  $r[yunusi=ga=du]$      $obaa=ga\ yaa=n$      $kaas=su$      $fai\ ui$   
 ユヌス(人名)=NOM=FOC    おばあ=GEN 家=DAT 菓子=ACC    食べる.CVB ASPNPST  
 (誰がどこでお菓子を食べているの?) 「ユヌスが**おばあ**の家でお菓子を**食べている**」
- (17)  $yunus\{=sa/*=ga\}$      $r[obaa=ga\ yaa=n=du]$      $kaas=su$      $fai\ ui$   
 ユヌス(人名)=NFOC/\*=NOM    おばあ=GEN 家=DAT=FOC 菓子=ACC    食べる.CVB ASPNPST  
 (ユヌスは何をしているの?) 「ユヌスは**おばあ**の家でお菓子を**食べている**」

19

## duはどのくらい焦点範囲の「左端」なのか?

### ■ 宮古の場合、とにかく表層的な語順の左端

**kama=n=du**    **usi=nu**    **uri**    **ui**  
 むこう=DAT=FOC    牛=NOM    いる.CVB    PROG.NPST  
 (牛がいることに気づいて) 「向こうに牛がいる」

**usi=nu=du**    **kama=n**    **uri**    **ui**  
 牛=NOM=FOC    向こう=DAT    いる.CVB    PROG.NPST  
 (牛がいることに気づいて) 「牛が向こうにいる」

20

## 動詞の焦点形と非焦点形

### ■ 動詞焦点形

duと共起しない

- 1) 語幹-dusi 例) ai-dusi(ある-FOC.NPST) ifu-dusi(行く-FOC.NPST)
- 2) 特殊終止形 例) ari(ある.FOC) ※ある、いる、満ちる、知るのみ

### ■ 非焦点形 ※ただし必ず前提を表し焦点範囲には入れないわけではない

duと共起

いわゆる「連体形」 例) ai(ある.NPST) ifu(行く.NPST)

**kuma=n**      **ai**      **sanazi**  
 むこう=DAT      ある.NPST      てぬぐい  
 「向こうにある手ぬぐい」

21

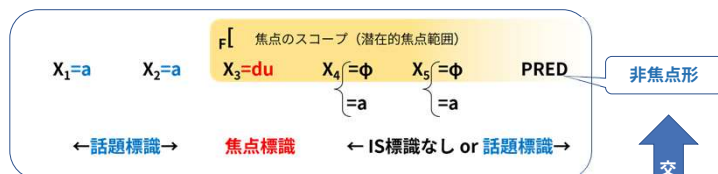
## duの有無と動詞非焦点形、焦点形

- a. **umanagi=n=na**    **taa=nu=du**    **ai/\*ai-dusi/\*ari**  
 このあたり=DAT=TOP 田=NOM=FOC ある  
 「このあたりには田がある」
- b. **umanagi=n=na**    **taa=ja**      **ai-dusi/ari/\*ai**  
 このあたり=DAT=TOP 田=TOP      ある  
 「このあたりには田はある」
- c. **umanagi=n**      **ai**      **taa**  
 このあたり=DAT      ある      田  
 「このあたりにある田」

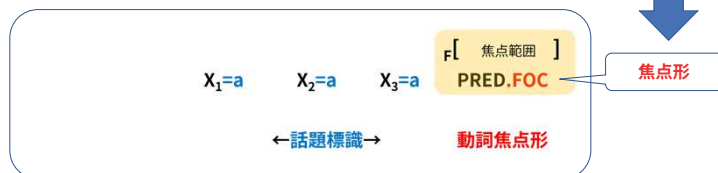
22

## 動詞非焦点形と焦点形の交替

項側に=duあり  
 焦点範囲が述語  
 より前から



項側に=duなし  
 焦点範囲が動詞  
 述語のみ



23

## 動詞焦点形、非焦点形とIS標識の関係

- a. **umanagi=n=na**      **taa=nu**      **?ai/\*ai-dusi/\*ari**  
 このあたり=DAT=TOP      田=NOM=FOC      ある  
 「このあたりには田がある」
- b. **umanagi=n=na**      **taa=ja**      **ai-dusi/ari/\*ai**  
 このあたり=DAT=TOP      田=TOP      ある  
 「このあたりには田はある」

※ 出現可否は、duの有無というより、文全体の情報構造（あるいはIS標識同士の兼ね合い）で決まっている

24

## 他地域について

- 宮古語内の諸方言
  - だいたい似たような傾向を持っている (p.c. 衣畑智秀氏、ケナン・セリック氏)。
  - ただし、方言によってはこの制限が緩く、非焦点形 (連体形) が du なしで現れることへの許容度が高かったり、焦点標識付与要素より前の要素に談話標識を付与しなくてもよかったりする (多良間など)。
  - 動詞焦点形である特殊終止形 = 接続形終止用法 (ari 「ある」など) が状態動詞以外にもあり、情報構造上の制限をもつ方言もある (林、セリック 2020)。

25

## 他地域について

- 八重山語 (宮良)
  - du のあるなしで述語が交替 (連体形 <-> 終止形)。
  - 話題標識の付与について宮古語のような厳密さはない。
  - 宮古と異なり、述語が焦点範囲に含まれさえすれば、終止形をつかうことができる。文焦点も終止形で表せる。
  - 文焦点の場合などは優先的にコアとなる項に du を付ける。(その他)
  - du がある場合に連体形はでるがさらに終助詞が必要な地域
  - 情報焦点に du を付与することへの義務性が弱まっている地域

26

## 古典語との共通性？

- フィアラ (2000)

古典語係り結びは、情報構造上の構文対立

～ハ・・・終止形 : 述語側に焦点がある場合

～ゾ、ナム、ヤ、カ・・・連体形 : 項側に焦点がある場合

- 竹内 (2016)

係助詞が廃れた中古語においても、終止形と連体形が主格標示と連動して文の情報構造上の対立をもつ

27

## 3. 通言語的な類型における位置づけ

宮古八重山タイプと同じ類型としてのソマリ語の提案を行い、これまで係り結びがあるとされていたシンハラ語、コリマ・ユカギール語などは、北琉球と同じと言えることを示唆する。

28

### 3. 通言語的な類型における位置づけ

## 通言語的な位置づけをするにあたって (1)

- 宮古語の焦点助詞と動詞の関係（係り結びによる動詞交替）：  
焦点（助詞）が項側にある場合は動詞は非定動詞的な非焦点形、述語に焦点がある場合は焦点形をとる

29

### 3. 通言語的な類型における位置づけ

## 通言語的な位置づけをするにあたって (2)

- 宮古語の情報構造上の特徴
  - 形態論的な方法をとる
  - 助詞および述語動詞による焦点標示が義務的（直説法（現在））
- 形態論的に義務的に焦点を標示する言語についての類型論的まとめはあまり多くないが、Drubig and Schaffer (2001) などが詳しい
- メジャーな（研究の多い）言語にはあまりないが、アフリカ諸言語に多く存在する (discourse-prominent languages)。2000年代前後から急速に情報構造の研究が進んだ

30

## ソマリ語

3. 通言語的な類型における位置づけ

- アフロ・アジア語族のクシ諸語に属するソマリ族の言語
- ソマリ族の主な居住地であるソマリア、ソマリランド、エチオピアのソマリ州、ジブチ、ケニア北東部などで話される
- 平叙文と疑問文では焦点は焦点助詞によって標示される
- 研究が比較的進んでいる（Saeed 1999 など）

31

## ソマリ語の情報構造標示の概要

3. 通言語的な類型における位置づけ

Saeed (2004) を基にまとめる。

※例文、図などもすべて Saeed 2004 より。例文番号など表示

- 語順：文法役割では決められない (p.266)

(26) [TOPIC\*      FOCUS      (other NP)      V-COMPLEX      TOPIC\*]

- 焦点標示の種類とその機能

(13)	Focus morpheme	Function
1.	<i>bàa</i>	(a) narrow (NP) focus
2.	<i>waa</i>	(b) sentence focus
3.	<i>wáxa</i>	predicate focus
		cleft narrow (NP) focus

32



## baa/ayaa (narrow focus)

(14) Q: *Inántii hálkàyy joogtaa?*  
*inán-tii hál-kée+bàa+ay joogtaa*  
 girl-the place-which+NFOC+she stay  
 '[F Where] is the girl?', lit. 'The girl, [F which place] is she in?'

A:(a) *(Inántii) Qólkáas bày kú jirtaa.*  
*inán-tii qól-káas bàa+ay in is*  
 girl-the room-that+NFOC+she in is  
 '(The girl), She's in [F that room].'

33

## baa/ayaa (broad focus)

(16) Q: *Maxáa dhacáy?*  
 what+NFOC happened  
 '[F What] happened?'

A: (a) *Cáli bàa Fáarax kú dhuftay.*  
 Ali NFOC Farah on struck  
 '[F Ali hit Farah].'

(b) *#Cáli Fáarax bìuu kú dhuftay.*  
 Ali Farah NFOC+he on struck  
 'Ali, he hit [F Farah].'

(c) *#Cáli Fáarax wùu kú dhuftay.*  
 Ali Farah wàa+he on struck  
 'Ali, Farah, [F he hit him].'

34

## waa

- 動詞グループの前について述語焦点を表す
- A typical use of this is in positive replies to yes-no questions, where no nominal is focused (p.265)

(22) (a) *Gábadh-ti má timi?*  
 girl-the QM came  
 'The girl, has she arrived?'

(b) *Haa, wày timi.*  
 yes waa+she came  
 'Yes, she's arrived'

(23) (a) *Miyàanú sòo noqónayn?*  
 QM+not+he VEN return:PROG:NEG  
 'Isn't he coming back?', 'Won't he come back?'

(b) *Haa, wuu sòo noqónayaa.*  
 yes waa+he VEN return:PRES:PROG  
 'Yes, he's coming back'.

35

## それぞれに現れる動詞形の違い

- baa/ayaa 文においては、waa 文と異なり、主語に付された時、主語や動詞の形式に関係節内と同じ特徴が現れる

(33) Features of focused subjects (p.268)

- A focused subject is not subject marked but occurs in the absolutive case.
- A verb agreeing with a focused subject shows a much reduced set of agreement markers** (Andrzejewski's 1968 'restrictive paradigm') and in positive paradigms a distinct accentual pattern, AP1.
- A focused subject may not be doubled by a clitic pronoun in the verbal group.

36

## 係り結びは本当に「通言語的に珍しい」のか？

- ソマリ語と同様の特徴を持つアフリカ諸言語には、共通性を見出せる言語が多くあるのではないかな？
- 少なくとも宮古語の焦点標識については、ソマリ語の焦点標識とかなり共通した特徴を持っている (林 2018)
- これらの言語との対照研究により、形態論的に情報構造を明示する言語における一般的・類型論的な特徴を導くことができ、「何がどう珍しいのか」という謎の解明にもつながるかもしれない

37

## これまで「係り結び」があるとされてきた言語

- 係り結び相当の構文があるとされる言語 (Whitman 2015)  
ダルギン語、シンハラ語、ユカギール語など
- いずれも強調構文なのではないか？ (=焦点標示が義務的でない)
  - シンハラ語  
「とりたて」詞と述語動詞の「強調形」が呼応 (岸本 2019)
  - コリマ・ユカギール語  
焦点構文とは異なる neutral sentence がある (Nagasaki 2018)

=&gt;北琉球については、このタイプといえそう

38

## 4. 北琉球タイプ

林 (2019) もとに、北琉球の首里方言と津波方言の du のある文における終止形終止制限について見、そこでは情報構造よりもムード・モダリティ性質が文末に影響を与えていることを示す。

39

## 首里方言の終止形と連体形 (強調形)

- 首里方言では du による係り結びがあるとされる、「強調形」とも呼ばれる協調を伴う連体形同形の形式が du の呼応形として表れる。しかし、連体形と終止形が必ず交替するわけではなく、du は終止形とも共起できる。
- ただし、必ず終助詞を伴っており、終助詞がない場合は許容されない。

**unu ninzjoo=ja hwise=nu=du {ndzutjuru/ndzutjun=doo/??? ndzutjun}**

(この 人形=TOP 足=NOM=FOC {動く.MSB/動く.CON=SFP/???動く.CON})

「この人形は (手ではなくて) 足が動く」

- なぜ du のある文の終止形終止にこのような制約があるのか？ :

du 結び形 (=強調形) は「強調法として」パラダイムの一部を成す。終止形終止は「強調を含む場合には不適切」 (林 2019)

40

## 津波方言における du が文末形式に与える影響

- 津波方言は**du**に対する**結び形がない**方言
  - ・ 終止形と異なる連体形はあるが、du結び形としては用いず、連体用法のみ
- しかし、首里方言と同様のduがある文の終止形終止における制限がある

aran, ringo=*ru utitan=do* / *???utitan*  
 (違う りんご=FOC 落ちる.PST.CON=SFP/落ちる.PST.CON)  
 (「バナナが落ちたの?」「違う、りんごが落ちた」)

- 結び形がない方言においても、du が文末に与える影響を観察できる

41

## 北琉球タイプの述語動詞形式交替

- 北琉球諸方言においては、duがあっても終止形が現れる(内間 1985、横山 2017)
- ただし、(方言によっては、) du の出現に伴う強調を終止形終止で表現できない場合があり、終止形終止が不適となる。そのばあい、終助詞などで義務的に補われる

42

## まとめ

- 情報構造卓立タイプ(宮古語、八重山語)における述語動詞形式の交替:  
述語動詞形式が情報構造上の制限をもっているために排他的な交替が起こる

ソマリ語?

- 非情報構造卓立タイプ(北琉球)における述語動詞形式の交替:

述語動詞形式に情報構造上の対立はないが、duの持つ性質とそれぞれの方言において終止形が強調の意味を持てるかどうかで、終止形終止に制限がかかる場合がある

シンハラ語?

43

## 引用文献

- Drubig, Hans and Wolfram Schäfer (2001) Focus constructions. In: Martin Haspelmath, Ekkehard König, Wulf Oesterreicher, and Wolfgang Raible (eds.) Language typology and language universals. International handbook. Vol. 2, 1079-1104. Berlin: Walter de Gruyter.
- フィアラ, カレル『日本語の情報構造と統語構造』ひつじ書房
- Hayashi, Yuka and Yukinori Takubo (2009) Kakarimusubi in Miyako Ryukyuan. Paper read at Workshop on Ryukyuan Languages and Linguistic Research, UCLA, Los Angeles (2009-10-25).
- 林由華 (2016) 「南琉球宮古語池間(西原)方言における焦点助詞duと述語動詞モダリティの相互関係」『日本語学会第152回大会予稿集』144-149.
- 林由華 (2017) 「南琉球宮古語池間西原方言におけるdu焦点構文と述語焦点形」『阪大社会言語学研究会ノート』15:87-99.
- 林由華 (2018) 「係り結び現象を生む述語の機能—過方言的な視点から」日本語学会第156回大会、東京大学 (2018年6月)
- 林由華 (2019) 「動詞結び形を持たない方言における係り結び関連現象: 沖縄本島北部津波方言を中心として」日本方言研究会第108回研究発表会、大阪大学 (2019年5月17日)。
- 林由華・ケナン=セリック (2020) 「南琉球宮古諸方言における接続形終止用法の機能」『方言の研究』6 ひつじ書房
- 岸本秀樹 (2019) 「シンハラ語のとりたて表現」野田尚史 (編) 『日本語と世界の言語のとりたて表現』201-218 くるしお出版
- Nagasaki, Iku (2018). The Focus Construction in Early Modern Kolyma Yukaghir. Gengokenkyu [言語研究], 154:123-152.
- ペーラル, トマ (2013) 「日琉祖語の分岐年代: wa琉球諸語と古代日本語に関する比較言語学的研究」発表資料、若手研究者による国際ワークショップ・琉球諸語と古代日本語に関する比較言語学的研究、京都大学 (2013年2月19日-20日)。
- Saeed, John (1999) Somali. Amsterdam: John Benjamins.
- Saeed, John (2004) The focus structure of Somali. In Brian Nolan (ed.), RRG2004: The International Role and Reference Grammar Conference, 258-279. Dublin: Institute of Technology Blanchardstown.
- Takubo, Yukinori and Yuka Hayashi (2010) Kakarimusubi in Ikema Ryukyuan. Paper read at the 20th Japanese/Korean linguistics conference, Oxford University, Oxford (2010-10-2).
- 竹内史郎 (2016) 「主節における主語標示法の発達について—中央語における—」NINJAL共同研究プロジェクト研究発表会「格と取り立て」(2016-9-19)
- 内間直仁 (1985) 「係り結びのかりの器まり: 琉球方言の係り結びを中心に」。『沖縄文化研究』11: 223-244.
- Whitman, John (2015). Kakarimusubi from a comparative perspective: A crosslinguistic survey of Focus Scope Concord Constructions. Presented at International Workshop "Kakarimusubi from a Comparative Perspective", NINJAL (2015-9-5).
- 横山晶子 (2017) 「琉球沖永良部島国頭方言の文法」—横浜大学博士論文

44

## 謝辞

本研究は、下記の助成金を受けています。

JSPS 科研費 17J10117 「琉球諸語および八丈語の諸方言における係り結びの類型化と機能の解明」

JSPS 科研費 19H05354 「日琉諸語の歴史と発展についての総合的研究に向けて」(新学術領域「ゲノム配列を核としたヤポネシア人の起源と成立の解明」公募班)

また、調査にご協力いただいた話者の皆様、話者の方々との間を繋いでくださった皆様に、心より感謝申し上げます。